

## 「ある夫の願い」

僕のおじいちゃんは、某有名大学出身でとても頭も賢く、運動神経も抜群で、小さい頃はよく勉強やスポーツなど、色々とおじいちゃんに教えてもらっていた。

そんなおじいちゃんが大好きで尊敬していたし、誇りでもあった。

しかし、今はおじいちゃんに勉強を教えてもらっていない。

正確に言えば、教えてもらう事ができなくなってしまった。

僕が高校2年生の頃、おじいちゃんは痴呆症になってしまったのだ。

**今では、僕の事も、実の娘の僕の母親も分からなくなってしまって、いつも僕たちに、「初めまして」とあいさつをしてくる。**

唯一、奥さんである僕のおばあちゃんの事は分かっているみたいだったけど、ここ最近になって、おばあちゃんの事も分からなくなってしまった。

しかし、おばあちゃんは毎日笑顔で、懸命におじいちゃんの世話をしていた。

今年の年初め、家族みんなが集まって家でごはんを食べようとなり、久々に家族全員で集まることになった。

家族の誰一人分からなくなってしまって、とても緊張をしているおじいちゃんに、おばあちゃんが笑顔で家族のみんなを紹介していった。

すると、いきなり、おじいちゃんは真剣な顔をして、おばあちゃんに向かって話し出した。

**「あなたは、本当に素晴らしいお方だ。**

**いつも素敵で笑顔で、僕に笑いかけてくる・・・**

**あなたが笑ってくれたら、僕はとても幸せな気持ちになれます。**

**もし、独り身なら、**

**ほ、僕と結婚してくれませんか？」**

家族全員の前でのプロポーズだった。

**2回目のプロポーズに、涙をぽろぽろこぼしながら、おばあちゃんは笑顔で、「はい」と答えた。**

## 「ある妻の願い」

1月中旬、妻容子が他界しました。入院ベッドの枕元のノートに「七日間」と題した詩を残して。

『神様お願い、この病室から抜け出して、七日間の元気な時間を下さい  
一日目には台所に立って、料理をいっぱい作りたい。あなたが好きな  
餃子や肉味噌、カレーもシチューも冷凍しておくわ』

妻は昨年11月、突然の入院となりました。すぐ帰るつもりで、身の回りのことを何も片付けずに。そのまま帰らぬ人となりました。

詩の中で妻は二日目、織りかけのマフラーなど趣味の手芸を存分に楽しむ。三日目に身の回りを片付け、四日目は愛犬を連れて私とドライブに行く。

『箱根がいいかな、思い出の公園手つなぎ歩く』

五日目、ケーキとプレゼントを11個用意して子と孫の誕生会を開く。

六日目は友達と女子会でカラオケに行くのだ。そして七日目。

『あなたと二人きり、静かに部屋で過ごしましょ、大塚博堂のCD  
かけて、ふたりの長いお話しましょ』

妻の願いは届きませんでした。詩の最後の場面を除いて。

「私はあなたに手を執られながら、静かに静かに時の来るのを待つわ」

容子。二人の52年間、ありがとう

素晴らしい話で感動しました。

もともと～全くの赤の他人である“夫”と“妻”が何十年も思い合って～  
いたわり合って～笑い合って過ごす事は、人生において一番難しい事だけども  
し「夫婦仲よし」で人生を過ごせれば、ほぼ人生無敵だとも・・・

最近、自分を振り返っても～仲よし夫婦だなあ～と感じるお客様夫婦や  
友人夫婦を見るたびにもしみじみ思い確信します！

考えてみると・・・

親～兄弟～子供といっても、多くの場合～せいぜい一緒に  
暮らすのは20年位なのに対して、夫婦の場合50年以上  
という方々がたくさんおられます。

私も「夫婦仲よし人生」目指して33年目の修行中です(笑)  
まだまだ悟れませんが～日々頑張りま～す！！

